

長岡市中之島新ごみ処理施設（仮称）
整備事業

審 査 講 評

令和2年1月24日

長岡市PFI事業等事業者選定委員会
中之島新ごみ処理施設(仮称)整備事業部会

長岡市PFI事業等事業者選定委員会中之島新ごみ処理施設(仮称)整備事業部会(以下「選定委員会」という。)は、長岡市中之島新ごみ処理施設(仮称)整備事業(以下「本事業」という。)に関して、平成31年4月の入札公告時に公表した落札者決定基準に基づき、提案内容等の審査を行ったため、審査結果及び審査講評を報告する。

令和2年1月24日

長岡市PFI事業等事業者選定委員会 中之島新ごみ処理施設(仮称)整備事業部会
委員長 荒井 喜久雄

目 次

第 1	選定委員会の構成及び開催経過	1
1	選定委員会の構成.....	1
2	選定委員会の開催経過.....	1
第 2	審査の方法	2
1	審査の流れ.....	2
2	審査の内容.....	3
第 3	審査の結果	6
1	資格審査.....	6
2	提案審査.....	6
第 4	審査の講評	9
1	各審査項目の講評.....	9
2	審査の総評.....	10

第1 選定委員会の構成及び開催経過

1 選定委員会の構成

選定委員会の構成は以下のとおり。

区分	氏名	所属等
委員長	荒井 喜久雄	社団法人全国都市清掃会議 技術部長
副委員長	茨木 正春	長岡市 建築技術専門監
委員	山口 直也	青山学院大学大学院会計プロフェッション研究科 会計プロフェッション専攻教授
委員	姫野 修司	長岡技術科学大学 環境社会基盤工学専攻准教授
委員	牧野 智一	長岡大学 経済経営学部准教授
委員	若月 和浩	長岡市 環境部長

2 選定委員会の開催経過

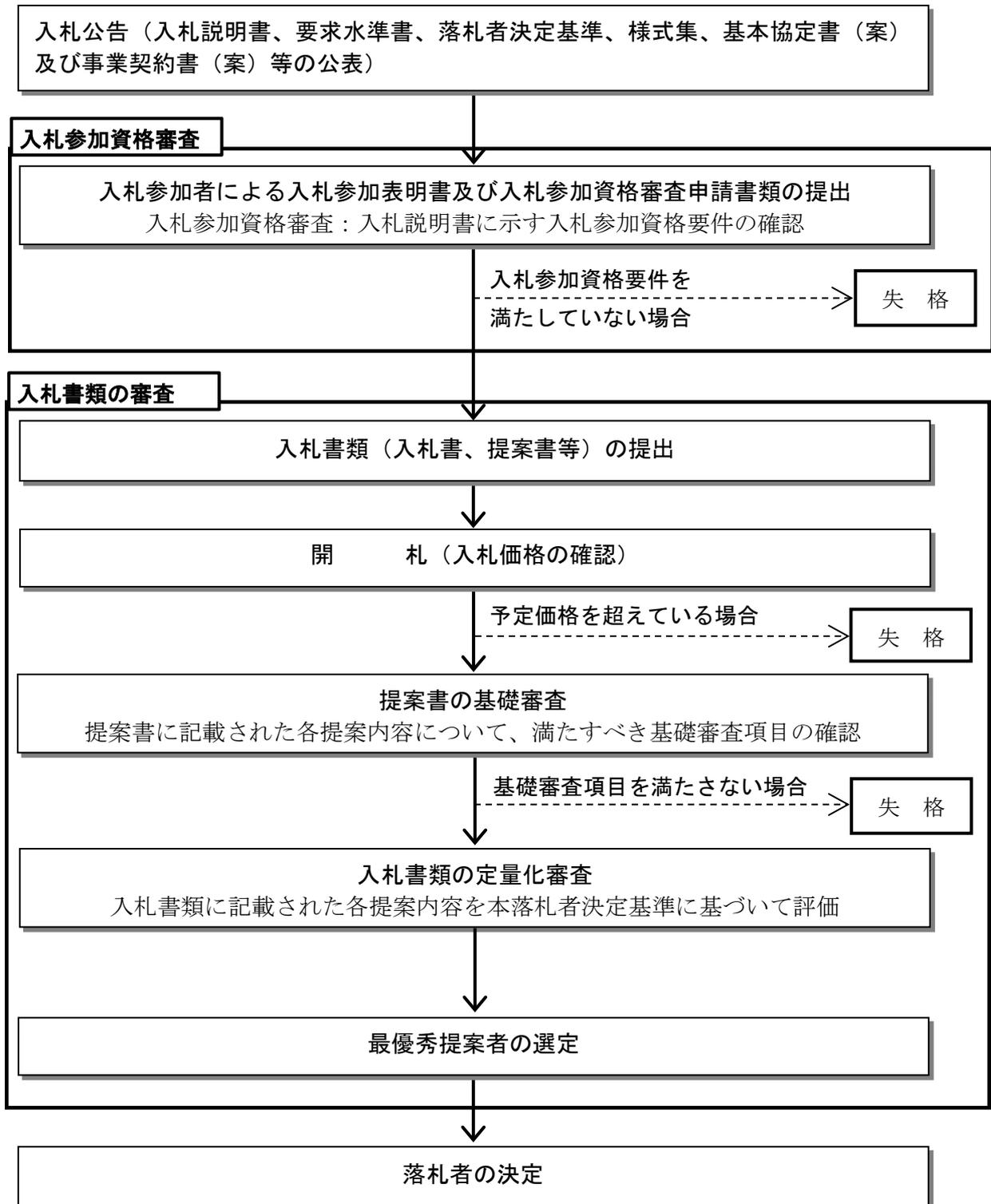
選定委員会の開催経過を以下に示す。

日程	会議名	主な議題等
平成29年11月20日(月)	第1回選定委員会	委員長の選出、事業概要の説明、実施方針・審査の進め方など
平成30年2月26日(月)	第2回選定委員会	入札説明書(案)・要求水準書(案)、落札者決定基準(案)など
平成30年4月5日(木)	第3回選定委員会	入札説明書(案)、要求水準書(案)、基本協定書(案)、事業契約書(案)、落札者決定基準(案)など
平成30年4月24日(火)	入札公告 ※入札の結果、予定価格に達した者がいなかったため取止め	
平成31年3月29日(金)	第4回選定委員会	入札説明書(案)、要求水準書(設計・建設編)(案)・(管理・運営編)(案)、落札者決定基準(案)など
平成31年4月25日(木)	入札公告	
令和元年10月29日(火)	第5回選定委員会	提案書に関する意見交換、ヒアリング実施要領及び審査方法など
令和元年11月26日(火)	第6回選定委員会	プレゼンテーション・ヒアリング、最優秀提案の選定など

第2 審査の方法

1 審査の流れ

落札者決定までの審査の流れは、次のフローに示すとおりである。



2 審査の内容

(1) 審査の方法

本事業の審査の方法としては、「入札参加資格審査」と「入札書類の審査」の2段階により行われる。

「入札参加資格審査」では、入札参加者から提出された入札参加表明書、及び入札参加資格申請書類について、入札説明書に記載の入札参加者の備えるべき入札参加資格要件を満たしていることを確認する。入札参加資格要件を満たしていない場合は失格とする。

入札参加資格要件を認められた入札参加者の提案内容について、各審査段階における基準を満たしていることを確認する。各審査段階において1項目でも満たさないことが確認された場合は失格とする。

「入札書類の審査」では、「入札価格の確認」「提案書の基礎審査」を経て、選定委員会は「入札書類の定量化審査」を実施し、最も優れていると認めた入札参加者を最優秀提案者として市に意見を具申し、市は選定委員会の意見を踏まえて、落札者を決定する。

(2) 入札参加資格審査

市は、入札参加者から提出された入札参加表明書、及び入札参加資格申請書類について、入札説明書に記載の入札参加者の備えるべき入札参加資格要件を満たしていることを確認する。入札参加資格要件を満たしていない場合は失格とする。

入札参加資格審査結果については、入札参加者の代表企業に対し通知する。

(3) 入札書類の審査

a) 開札（入札価格の確認）

市は、入札書に記載された入札価格が予定価格を超えていないことを確認する。なお、入札価格が予定価格を超える場合は失格とする。

b) 提案書の基礎審査

市は、入札参加者から提出された提案書に記載された内容（以下「提案内容」という。）について、「表 基礎審査項目」の内容を満たしていることを確認する。基礎審査項目について1項目でも満たさないことが確認された場合は失格とする。全ての基礎審査項目を満たしていることが確認された場合、当該提案書について、定量化審査を行う。

表 基礎審査項目

① 共通事項
・入札書類全体について、同一事項に対する2通り以上の提案又は提案事項間の齟齬、矛盾等がないこと。
・提案書全体について、様式集に従った構成（項目の構成、枚数制限等）となっていること。
② 設計・建設業務に関する提案書
・当該提案に関連する各様式に示す項目に対する提案の内容が要求水準書等に反していないこと。
③ 運營業務に関する提案書
・当該提案に関連する各様式に示す項目に対する提案の内容が要求水準書等に反していないこと。
④ 事業計画に関する提案書
・当該提案に関連する各様式に示す項目に対する提案の内容が要求水準書等に反していないこと。
・リスク分担に関し、契約書（案）で示したリスクの分担と齟齬がないこと。
・事業遂行に対する十分な資金が確保され、資金源、調達条件（金利等）が明示されており、適切であること。
・設計及び建設の対価について、市の支払いが入札説明書等に記載したものと矛盾しておらず、また事業計画上適切であること。
・算出根拠が明示されていること。
⑤ 設計図書
・設計図書の内容が要求水準書等に反していないこと。

c) 定量化審査

選定委員会は、基礎審査項目の達成が確認された入札参加者の入札書類について、定量化審査を行う。定量化審査により最優秀提案者を選定するに当たっては、「加算方式」を採用し、以下の式により、総合評価点を算出する。

$$\text{総合評価点 (200 点満点)} = \text{価格評価点 (80 点満点)} + \text{技術評価点 (120 点満点)}$$

① 価格評価点の審査

価格評価点は80点満点とし、各入札参加者の入札価格について、次に示す計算式に基づき算定を行う。なお、入札価格が最も低い入札参加者の価格評価点が満点となる。

また、価格評価点は小数点以下第3位を四捨五入する。

(算定式)

$$\text{価格評価点} = \left(\frac{\text{最も低い入札価格}}{\text{当該入札参加者の入札価格}} \right) \times 80 \text{ 点}$$

② 技術評価点の審査

技術評価点の審査に当たっては、「表 提案内容の得点化方法」に示す5段階評価により、選定委員会の各委員が個別に評価を行い、その平均値を得点として付与する。技術評価点は小数点以下第3位を四捨五入する。

なお、審査に当たり選定委員会は、審査項目に対して、要求水準書等に示す要件を超える提案や各入札参加者の実績を踏まえたより実現性の高い提案について、120点満点として評価し、技術評価点を付与する。

表 提案内容の得点化方法

評価	判断基準	得点化方法
A	当該項目に関して特に優れている	配点×1.00
B	AとCの中程度	配点×0.75
C	当該項目に関して優れている	配点×0.50
D	CとEの中程度	配点×0.25
E	要求水準を満たす程度である	配点×0.00

d) 最優秀提案者の選定

選定委員会は、定量化審査の結果、「総合評価点」が最も高い入札参加者を最優秀提案者として選定し、市に意見を具申する。

(4) 落札者の決定

市は、選定委員会による最優秀提案者の選定に関する意見を踏まえて、落札者を決定する。なお、総合評価点が最も高い提案が2以上ある場合には、技術評価点が最も高い提案者を落札者とする。技術評価点も同一の場合には、当該入札参加者によるくじ引きで落札者を決定する。

落札者が決定した際には、その結果を市のホームページで公表する。

第3 審査の結果

1 資格審査

市は、令和元年7月1日において提出された参加表明書及び入札参加資格審査申請書類等の書類をもとに、入札参加者が満たすべき参加資格要件について確認し、令和元年7月12日付で参加資格審査結果（参加資格があるものと認めたもの）を入札参加者の代表企業に通知した。

なお、参加資格審査結果の通知時に、受付番号等として「トキグループ」との名称を参加グループに付与した。

<参加グループ一覧>

入札参加者	参加区分	企業名	役割
日立造船 (トキ) グループ	代表企業	日立造船株式会社 東京本社	熱回収施設プラントの設計・建設企業 運営企業
	構成員 (代表企業を除く。)	株式会社植木組 長岡支店 株式会社大石組 株式会社中越興業 株式会社大原鉄工所	建屋の建設企業 建屋の建設企業 建屋の建設企業 不燃・粗大ごみ処理施設プラントの設計・建設企業
		Hitz 環境サービス株式会社	運営企業
	協力企業	株式会社あい設計 新潟支社 株式会社エイト日本技術開発 新潟事務所	工事監理企業 工事監理企業

2 提案審査

(1) 入札書類の確認

市は、令和元年9月17日に入札書類の受付を行い、入札参加者1グループより入札書類を受け付け、入札書類がすべて揃っていることを確認した。

(2) 基礎審査

ア 入札価格の確認

市は、令和元年9月17日に入札参加者から提出された入札書に記載された金額（入札価格）が、予定価格 20,107,315,000 円（消費税及び地方消費税を含む。）を超えていないことを確認した。

イ 提案書の確認

市は、入札参加者から提出された提案書が、入札説明書等に記載する全ての基礎審査項目を満たしていることを確認した。

以上から、入札参加者1グループについて要件を満たすことを確認し、基礎審査を合格と

した。

(3) 定量化審査

ア 価格評価点の審査

入札参加者 1 グループの入札価格について、落札者決定基準に示す算出方法に基づき価格評価点を下記のとおり算出した。

□ 価格評価結果

	日立造船（トキ）グループ
入札価格	20,080,477,635 円
計算式	$(20,080,477,635 \text{ 円} / 20,080,477,635 \text{ 円}) \times 80 \text{ 点}$
価格評価点	80 点

イ 技術評価点の審査

技術評価点の審査を行う上で、入札参加者の提出した提案書の記載内容を明確にするために、入札参加者に対して提案内容についてのヒアリング（プレゼンテーション及び質疑応答）を令和元年 11 月 26 日に実施した。

その後、選定委員会にて十分な議論を行った上で、落札者決定基準に基づき各委員が 5 段階評価を行い、その平均値を得点として付与した。

技術評価点の審査の結果は次の表に示すとおりである。なお、入札参加者の提案について選定委員会が評価した事項は第 4 の 1 に示す。

□技術評価結果

審査項目		配点	日立造船 (トキ)グループ
1	設計・建設業務に関する事項 (48 点)		31.08 点
	(1) 周辺環境との調和対策	8 点	5.00 点
	(2) 安全性・安定性対策	10 点	7.08 点
	(3) 環境負荷の少ない効率的な施設設計	12 点	8.50 点
	(4) 長寿命化対策	12 点	7.50 点
	(5) 災害時対策	6 点	3.00 点
2	管理・運營業務に関する事項 (38 点)		22.33 点
	(1) 安全性・安定性対策	14 点	9.33 点
	(2) 環境負荷の少ない効率的な管理運営対策	12 点	7.50 点
	(3) 長寿命化対策	12 点	5.50 点
3	事業計画に関する事項 (34 点)		23.16 点
	(1) 事業全体プロジェクトマネジメント・実施体制	8 点	4.33 点
	(2) 資金調達計画・長期収支計画	8 点	6.00 点
	(3) リスク対応及びセルフモニタリング	8 点	5.33 点
	(4) 地域経済への貢献	10 点	7.50 点
技術評価点		120 点	76.57 点

(4) 総合評価及び最優秀提案者の選定

価格評価及び技術評価を行った結果を踏まえて、総合評価を行った。

$$\text{総合評価点} = \text{価格評価点} + \text{技術評価点}$$

□総合評価結果

	日立造船 (トキ) グループ
価格評価点 (80 点)	80.00 点
技術評価点 (120 点)	76.57 点
総合評価点 (200 点)	156.57 点

以上により、本事業を遂行する基準を満たすことを踏まえ、総合評価を行った結果、日立造船 (トキ) グループの提案を最優秀提案者として選定し、市に意見具申を行った。

第4 審査の講評

1 各審査項目の講評

選定委員会において評価された事項を以下に示す。

審査項目	審査講評
1. 設計・建設業務に関する事項	
(1) 周辺計画との調和対策	・色彩面や形状面で圧迫感の軽減を図っていることや煙突にテーマを持ってデザインをしていることなど、各種工夫をしている点を評価した。
(2) 安全性・安定性対策	・焼却施設と不燃・粗大ごみ処理施設の両方において、各種の具体的な提案をしている点を評価した。
(3) 環境負荷の少ない効率的な施設	・豊富な実績に基づく各種の提案により積極的な発電や CO2 排出量の低減に努めている点を評価した。
(4) 長寿命化対策	・ライフサイクルコストの低減に配慮し、耐久性の優れた材質及び機器等を選定している点を評価した。
(5) 災害時対策	・災害の種別に合わせた各種の対策を計画している点を評価した。
2. 管理・運營業務に関する事項	
(1) 安全性・安定性対策	・柔軟な操炉、混入防止対策及び代表企業の豊富な事例の情報共有等、各種の対策を計画している点を評価した。
(2) 環境負荷の少ない効率的な管理運営対策	・代表企業の常時のバックアップ体制により、緊急時における信頼性の向上を図っている点を評価した。
(3) 長寿命化対策	・事業期間終了後の円滑な引き継ぎについて、本施設の長寿命化に繋がる提案があった点を評価した。
3. 事業計画に関する事項	
(1) 事業全体プロジェクトマネジメント・実施体制	・事業実施体制に地域金融機関の活用や地域企業 3 社を構成員に含むなど、地域企業を活用した点を評価した。
(2) 資金調達計画・長期収支計画	・長期収支の安定化のために各種具体的な提案がなされている点を評価した。
(3) リスク対応及びセルフモニタリング	・本事業における想定リスクの具体的な予防策及び対応策の提案、重層的なモニタリングとなっている点を評価した。
(4) 地域経済への貢献	・地域企業を積極的に活用し、更に地域人材の活用及び定着に向けた具体的な提案がなされている点を評価した。

2 審査の総評

本事業は、長岡市が計画した長岡市中之島新ごみ処理施設(以下「施設」という。)の設計・建設及び運営を行うことを目的とするものである。

本事業は、民間事業者に設計・建設及び運営を一括かつ長期的に実施させることにより、民間事業者の創意工夫が発揮され、財政負担の縮減及び公共サービス水準の向上等が期待されることから、PFI方式での実施となった。

今回、複数の企業から関心が寄せられた中で、最終的に1グループから応募があった。提案には、これまでの応募企業の他の事業での実績をもとにした独自のノウハウや技術が盛り込まれており、市の要求水準を上回る提案内容が示された。応募企業の提案書の作成における努力に敬意を表するとともに、深く感謝申しあげたい。

選定委員会は、落札者決定基準に則り、各審査項目について厳正かつ公正に審査を行った。審査の結果、日立造船株式会社 東京本社を代表企業とする日立造船グループを最優秀提案者として選定した。当該グループからは、施設の安全性・安定性対策や環境対策、地域経済への貢献に関する事項など、数多くの優れた提案があった。

今後、日立造船グループは、市と事業契約を締結するための協議を行うこととなるが、市の要求事項のみならず、提案した内容を確実に履行することが求められる。その上で、日立造船グループは、本事業をさらに充実したものとし、事業期間にわたって安定的な施設の稼働や良質なサービスの提供ができるように、次の事項に留意して事業を実施されることを期待する。

- 提案内容を確実に履行すること。
- 民間事業者のノウハウを最大限に発揮し、資源の循環、熱エネルギーの更なる有効活用と消費エネルギーの削減に努め、持続可能な社会の形成推進に寄与すること。
- 動線計画について、特に安全性や作業性を踏まえたよりよい計画とすること。
- 見学者や利用者に配慮したユニバーサルデザインを平常時と災害時を問わず実現すること。
- 施設の利用者である一般の搬入者・見学者の安全対策はもとより、従業員の労働安全にもより一層配慮すること。
- 寒冷地であることを十分に考慮し、施設の設計及び運営を行うこと。
- 地域との良好な関係を築き、地域に開かれた施設とすること。
- 自然や景観に配慮した施設とすること。
- 特に運営段階において、地元発注額の増加に努めるなど、一層の地域経済の発展への貢献に努めること。
- 長岡市の他の廃棄物処理施設との連携を十分に図ること。

日立造船グループは、上記の配慮・要望事項について、入札及び契約の公平性を妨げない範囲において、本事業をより良いものとするため、市と十分な協議を行い、真摯な対応に努め、今後の事業期間を通して質の高い公共サービスを提供することを期待する。

最後に、市と日立造船グループは、本事業の良きパートナーとして地域との信頼関係を築きながら、本事業を計画的かつ適切に推進することを希望するものである。